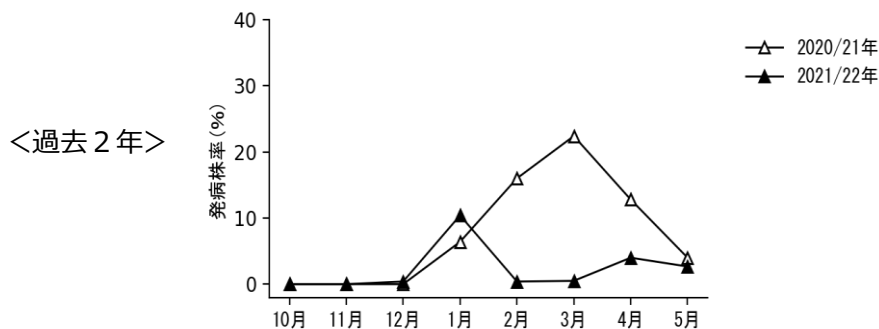
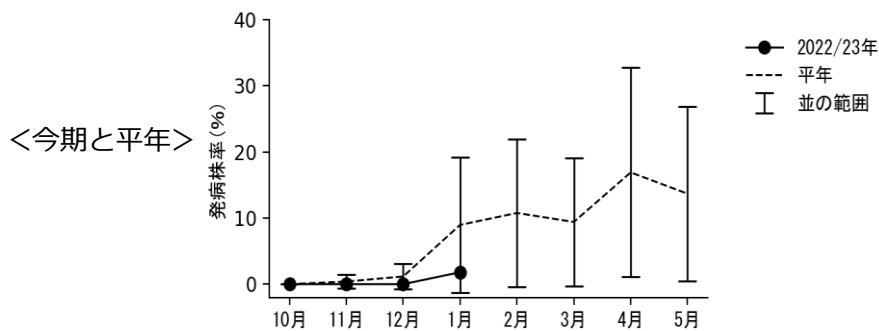


作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報	1 月からの増減傾向	↗		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


発病株率の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 36.0%)

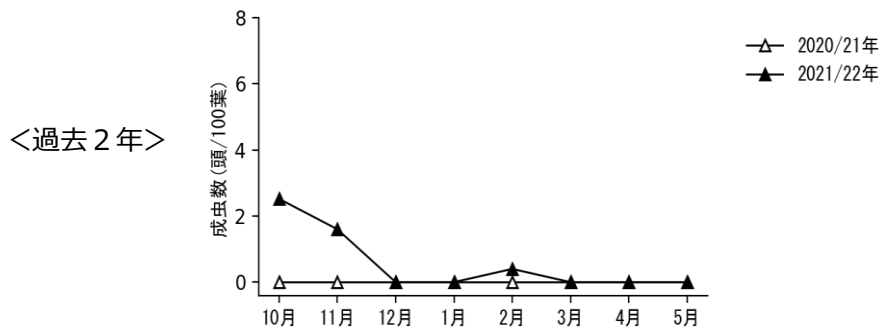
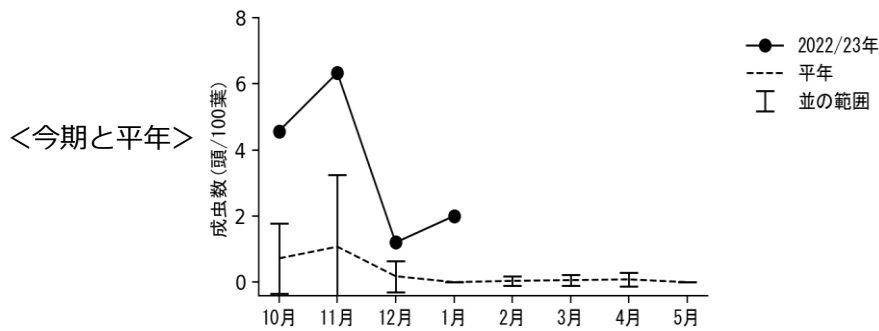
防除のポイント

- ・病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難となるので、葉をよく観察し早期発見・防除に努める。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	② ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率20.0% (平年：0%)

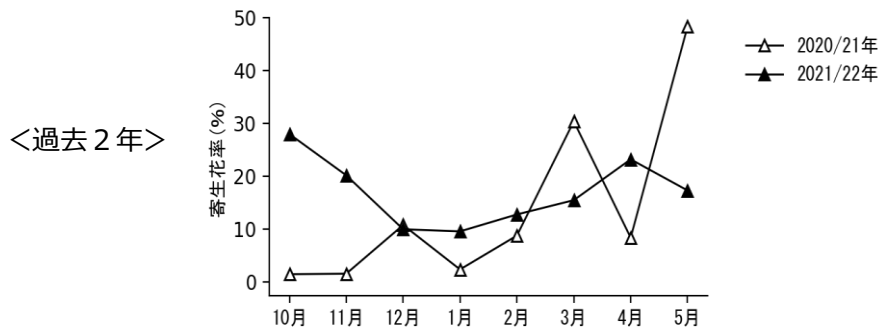
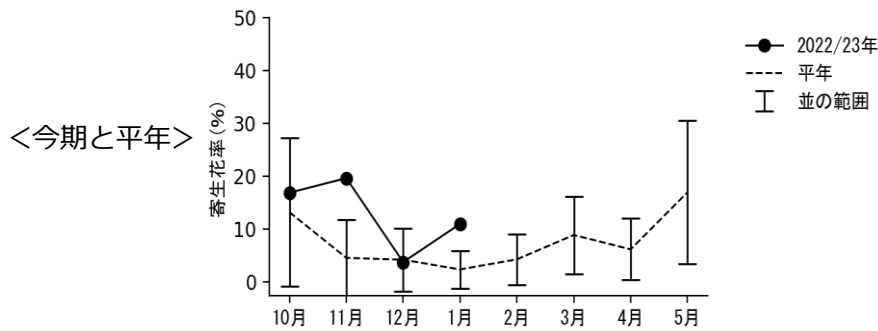
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルス等を媒介する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、青色粘着板等を用い早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)		地域	沖縄群島
病害虫名	③ ヒラズハナアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	1 月からの増減傾向	↗		
	2 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

寄生花率の推移



・発生施設率80.0% (平年：20.0%)

防除のポイント

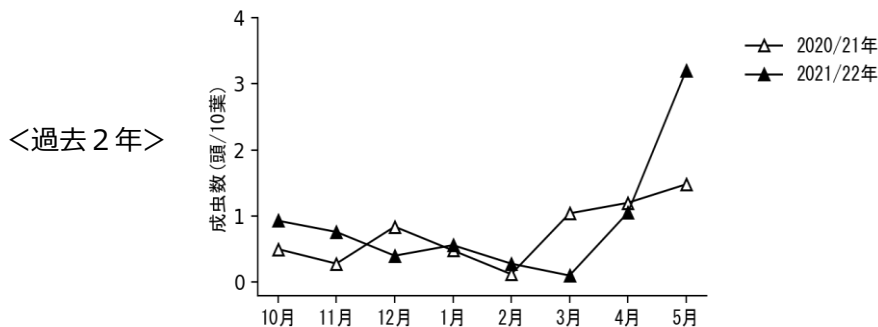
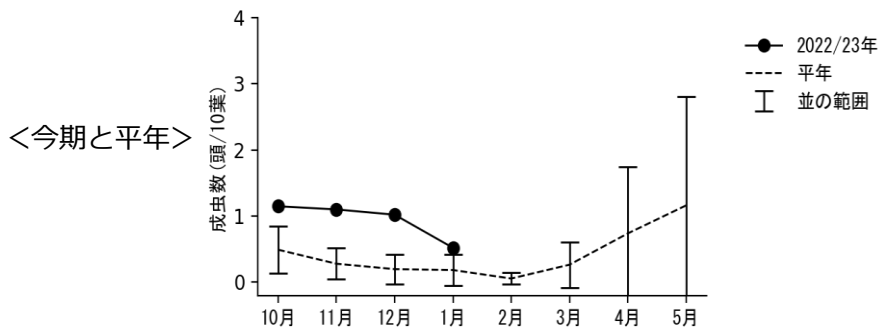
- ・本種は主に花に寄生し、多発すると産卵により果実へタ部や果梗部が黒変する。
- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・繁殖力が高く多発すると防除が困難になるため、初期防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない薬剤を選定する。

作物	ピーマン(施設)	地域	沖縄群島
病害虫名	④ タバココナジラミ		
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	1 月からの増減傾向	→	
	2 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	



調査結果

成虫数の推移



・発生施設率90.0% (平年：24.0%)

防除のポイント

- ・施設の開口部には防虫ネット等を張り飛来侵入を防ぐ。
- ・本種は、多発すると果実の着色異常やすす病を引き起こすため、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となる周辺雑草の除去に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。
- ・天敵を利用している施設では、薬剤散布の際には天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を選定する。



幼虫